

## 白川総裁記者会見要旨（2月26日）

—— G20 終了後の白川総裁・中尾財務官 共同記者会見における総裁発言要旨

---

2012 年 2 月 27 日

日本銀行

—— 於・メキシコシティ

2012 年 2 月 26 日（日）

午後 4 時 50 分から約 20 分間（現地時間）

### 【冒頭発言】

昨夜の世界経済に関するセッションに続いて、本日の G20 では、フレームワーク、国際金融アーキテクチャー、金融規制改革・金融包摂、エネルギー・一次産品について議論をしました。会合の成果は、コミュニケにとりまとめられていますが、私から簡単にポイントを紹介いたします。コミュニケの詳細については、後ほど財務官よりご説明があります。

まず、世界経済については、ギリシャ第 2 次支援パッケージの合意等、最近の欧州における重要な進捗を歓迎しました。他方、為替など金融市場のボラティリティは足もとでは下がってきてはいますが、なお警戒が必要な状況であり、下方リスクが発現しないよう注視する必要があるとの認識が共有されました。

フレームワークについては、これまでの G20 における各国のコミットメントが達成されることを確保するため、モニタリングとアカウンタビリティを強化することが確認されました。また、6 月のロスカボス・サミットに向けて、今後、G20 としての新たな行動計画であるロスカボス・アクションプランを策定することに合意しました。

国際金融アーキテクチャーに関しては、昨日のワーキング・ディナーにおける議論を踏まえ、IMF の資金基盤強化について補足的に議論が行われ、その結果、3 月に行われるユーロ圏諸国による E F S F / E S M の資金規模の再評価を重要な判断材料として、IMF の資金基盤強化を検討していくことが合意されました。これについては、昨夜のセッションで、安住大臣より、欧州自身による一段の努力の結果を踏まえた上で、IMF の資金基盤強化やわが国の貢献について具体的に検討する旨発言したところであり、わが国の考え方が今回の合意に十分反映されていると考えています。

金融規制改革については、既に合意されたスケジュール通りに金融改革を遂行するというコミットメントを再確認しました。私からは、F S Bのガバナンス改革ではこれまでの柔軟な対応を可能にした現在の枠組みの利点を維持することの必要性を指摘しました。規制を国内で実施する際には、意図せざる影響がクロスボーダーに発生し得るので、国際的な協調は重要であり、米国の自己勘定取引の制限を目的としたいわゆる「ボルカールール」について、米国当局がこの点を十分に勘案した上で適切に実施されることを期待している、と申し上げました。

エネルギー・一次産品については、これまでのG20における作業——この中には昨年日本銀行の中曾理事が議長を務めたスタディグループの成果も含まれるわけですが——、これらを踏まえて、価格変動が経済成長に与える影響に関する報告書を作成することに合意しました。

今回の会議は、メキシコが議長国となって初めてのG20でした。議論の結果、6月のロスカボスでのG20サミットに向けた良いスタートが出来たものと考えています。

**【問】**

金融緩和などの政策を通して、ヨーロッパの危機に対応するための時間を買っている、ということをおっしゃっていましたが、金融当局から見て、IMFの資金増強の議論は、例えば4月以降では遅すぎるのか、もっと早くしてほしいのかについて、どう思っているのかを教えてください。

**【答】**

時間を買っている間に様々な施策にしっかり取り組んでいくことが大事だということとは、かねがね申し上げている通りです。資金基盤の強化についても、様々な意見の違いがある中で、今回4月にレビューをしていくということになったのは一定の前進であったと思っています。欧州の債務問題の解決に向けては、資金基盤の強化ももちろん大事ですが、これに加えて、経済・財政の改革、ガバナンスの改革の3つが必要です。したがって、資金基盤だけでなく、この3つの点がいずれも着実に前進していくこと、時間を買っている間にこういうことをしっかりやっていくことが大事だという評価は変わっていません。

以 上